

今週の為替相場見通し(2017年6月12日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		109.12 ~ 110.81	110.33	108.50 ~ 112.00
ユーロ	(ドル)		1.1167 ~ 1.1285	1.1194	1.1120 ~ 1.1270
(1ユーロ=)	(円)		122.64 ~ 124.70	123.49	122.50 ~ 125.50
英ポンド	(ドル)		1.2636 ~ 1.2978	1.2744	1.2550 ~ 1.2850
(1英ポンド=)	(円)	*	139.54 ~ 143.10	140.62	138.50 ~ 141.50
豪ドル	(ドル)		0.7416 ~ 0.7568	0.7530	0.7450 ~ 0.7700
(1豪ドル=)	(円)	*	81.78 ~ 83.40	83.09	82.00 ~ 84.50

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替市場第一チーム 和地 淳史

(1)今週の予想レンジ: 108.50 ~ 112.00 円

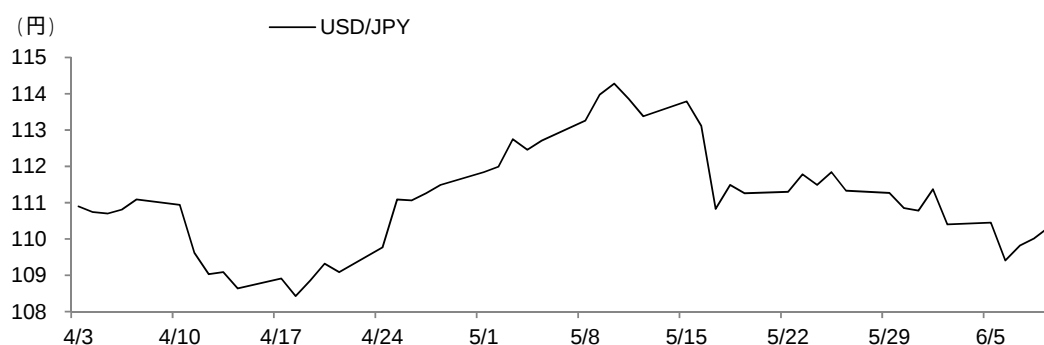
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は週半ばに下攻めする展開となった。週初5日に110円台半ばでオープンしたドル/円は、ロンドンでのテロを受けても下値は限定的。実需の買いや底堅い株価にサポートされ、110.73円まで反発した。しかし、その後は中東5か国がカタールとの外国関係断絶を受けた原油協調減産の先行き懸念から原油価格が低迷したこともあり、ドル/円は上値重く推移。6日にはテクニカル面での重要な水準110.20円付近を割り込んだため、109円台後半に急落。海外時間には中国が米国債の保有額を増やす用意があるとの報道を受けて米金利が低下すると109円台前半まで一段安となった。7日は翌日に英総選挙、ECB政策理事会、コミー前FBI長官の議会証言を控える中、リスク回避の動きが強まるとドル/円は一時週安値となる109.12円まで下落。しかし、コミー氏が書面で事前に提出した証言内容が目新しさに欠けたことから、109円台後半まで反発。8日に「日銀が出口戦略について時期尚早としていた姿勢を改める」と報じられ、109円台前半まで再び急落する場面が見られたが、すぐに買い戻す動きが入り110円台前半を回復した。9日早朝に英総選挙の出口調査結果が発表。保守党の獲得議席数が過半数を割り込む見通しとなったことを受けてGBPが急落となったが、ドル/円での反応は限定的。その後は、実需の買いも見られたことで徐々に買戻しの流れとなった。結局、全ての注目イベントを無難にこなした印象となったことでリスクオフの流れが強まり、海外時間には一時週高値となる110.81円まで上昇。ただし、その後はムニューシン米財務長官が通貨安誘導を監視するのは重要と発言したことを受けて上げ幅を縮小し、110.33円で越週した。

今週のドル/円相場は、基本的には動きにくい展開を予想。今週の最重要イベントは13~14日のFOMC。今会合での利上げがメインシナリオとなる中、注目はイエレンFRB議長会見と政策金利見通しを受けた今後の引き締め路線の先行きとなる。メインシナリオとはいえ利上げをすれば一時的にドル買いとなる可能性は高いものの、原油価格の低迷やインフレ圧力が弱い状況、トランプ政策の不透明さを考えれば、金利先高観が強まる可能性は低いだろう。週初に米債入札が予定されていることを考えれば、FOMCまではドル買い地合い、FOMC後はドル売り地合いとなりやすいか。ただし、ボラティリティは低い状況下、今週110円付近には多くのオプションカットが予定されていることもあり、大きな動きはみられないだろう。なお、週半ばから週後半にかけての米経済指標や16日の日銀金融政策発表にも注目しておきたい。

(3)先週までの相場の推移

先週(6/5~6/9)の値動き: 安値 109.12 円 高値 110.81 円 終値 110.33 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

(1) 今週の予想レンジ: 1.1120 ~ 1.1270 122.50 ~ 125.50 円

(2) ポイント[先週の回顧と今週の見通し]

先週のユーロ/ドル相場は週末にかけて下落する展開。週初5日に1.12台後半でオープンしたユーロ/ドルは、8日の英下院総選挙やECB政策理事会を前に様子見姿勢が広がる中、利益確定のユーロ売りの動きに一時1.12台前半まで下落。その後は堅調な値動きとなり1.12台半ばまで値を戻す展開。6日、前日の堅調な流れを引き継ぎ1.12台後半で推移。欧州時間に1.12台半ばまで小緩む場面もあったが、米長期金利の低下を背景に値を戻し、一時週高値となる1.1285まで上昇。7日、1.12台後半で推移していたユーロ/ドルは、ECBがインフレ見通しを下方修正するとの報道に1.12ちょうど近辺まで急落。しかしながら、修正は小幅になる見通しとの追加報道が伝わると1.12台後半まで急騰する荒い値動きとなった。8日、注目されたECB政策理事会ではフォワードガイダンスで緩和姿勢の後退が示されるも、インフレ見通しが下方修正される内容にユーロ/ドルは1.12台後半から1.1195まで急落。その後行われたコミー前FBI長官の公聴会では、焦点となっていたトランプ米大統領による司法妨害の有無については言及されないなど、特段目新しい材料は示されず、ユーロ/ドルは1.12台前半での上値の重い展開となった。9日、8日に行われた英下院総選挙の結果が徐々に明らかとなる中、与党保守党は議席数を減らすも第一党を維持し、イベント通過の安心感が広がるとドル買い優勢地合いとなり、ユーロ/ドルは週安値となる1.1167まで軟化する展開。その後はやや値を戻すも、結局ユーロ/ドルは1.11台後半、ユーロ円は123円台半ばで越えた。

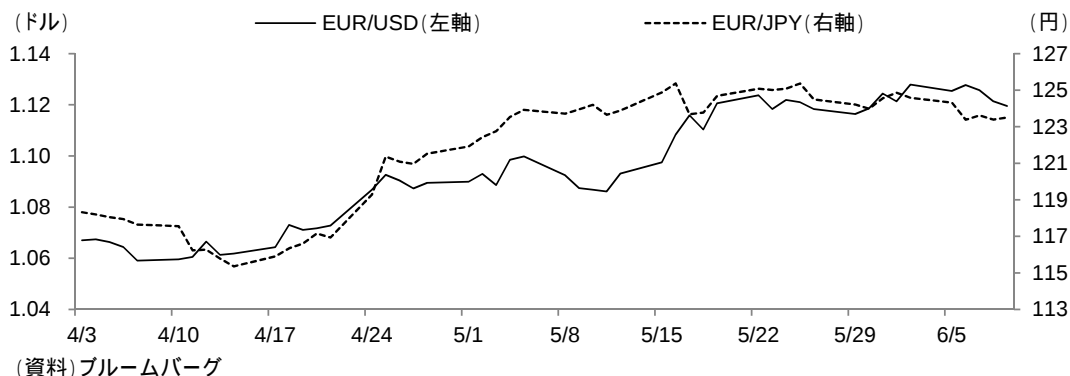
今週のユーロ相場は、上値の重い展開を予想する。欧州における主要イベントを通過した状況下、足許の注目トピックは今週13日(火)から14日(水)にかけて開催されるFOMCに移っており、ドル相場主導の展開となりそう。先週行われたECB政策理事会では、下向きとされていたリスクバランスは中立化、フォワードガイダンスについては追加利下げを示唆する文言が削除されるも、スタッフ予想におけるインフレ見通しは下方修正される強弱入り混じる内容となった。ドラギECB総裁からは、必要であれば追加利下げの用意があるとして引き続きの慎重姿勢が示された。ECBのタカ派傾斜に対して市場の期待感が過度に高まっていたこともあり、今回合合の結果にやや失望する見方も多く、ここから一段とユーロ買いが強まる展開は想像し辛い。今週予定しているFOMCについては利上げがほぼ確実視されているものの、足許のインフレ率や労働市場に関する経済指標が伸び悩んでいる状況下、引き続きの利上げスタンスが示されれば一旦は安心感からドル相場は底堅い推移が予想され、ユーロ/ドルは上値の重い展開となるだろう。また、イエレンFRB議長から足許の経済指標の伸び悩みについて一時的との見解が示されればドル相場の更なるサポート材料となりそう。加えて、足許のドル相場は英米の政治リスクを巡るイベントを背景にやや弱含んでいたように見える中、無難に通過した状況下その巻き戻しも考え得るところ。今週は、ECBのタカ派傾斜に対する期待感が後退する中、英米政治リスクを巡るイベントを無難に通過した安心感や米FOMCに対する期待感からドル相場の堅調推移が予想され、基本的にユーロ相場は上値の重い展開を予想する。

(3) 先週までの相場の推移

先週(6/5~6/9)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1167 高値 1.1285 終値 1.1194

(対円) 安値 122.64 高値 124.70 終値 123.49



3. 英ポンド

欧州資金部 山田 杏奈

(1) 今週の予想レンジ: 1.2550 ~ 1.2850 138.50 ~ 141.50 円

(2) ポイント[先週の回顧と今週の見通し]

先週の英ポンド相場は狭い値幅で推移した後、英総選挙の速報を受けて大幅下落。英総選挙前日までのポンドは引き続きドル安の影響を受けながら対ドルで上昇、英総選挙直前には節目の1.3近辺まで上昇した。対円では概ね横ばい、対ユーロでは小幅上昇した。3日夜にロンドン橋及びバラ・マーケットで7人が死亡するテロが発生したが、マンチェスターでテロが発生したときと同様、英金融資産は株式、債券、ポンド共にほとんど反応を示さなかった。英経済指標は、英4月鉱工業生産が予想以上の大幅な下振れ(9日)であったが、英総選挙の開票中ということもあり、市場の反応は限定的。注目された英総選挙については、日本時間9日午後10時時点で、メイ首相率いる与党保守党が318議席(改選前:330議席)、労働党が261議席(改選前:229議席)となり、保守党が過半数を割り込む結果となった。投票後の出口調査で過半数を割り込む可能性が報道されると、保守党が議席を伸ばすと予想していた市場にとってはサプライズとなり、ポンドは急落。対ドルでは1.2900ドル台半ばから1.2750近辺まで下落、対円でも140円を割る水準まで下落し、いずれも1か月半ぶりの安値まで低下した。その後も値幅は大きく、一時対ドルで1.2650を割る場面もあり、予想外の選挙結果に市場は混乱する結果となった。

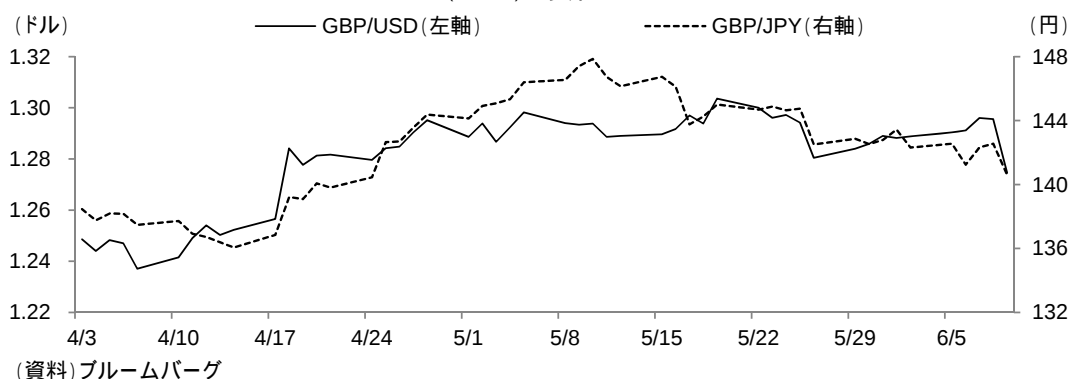
今週の英ポンド相場は、ヘッドライン次第で上下に動きながらも、下落を予想。英総選挙は、過半数を占める政党がない「宙吊り議会」となり、今後、少数政権の樹立や連立政権の模索が始まるだろう。今後の方針が明確になるまでは、ヘッドラインによって相場の方向感が変わる可能性はあるが、EU離脱に向けて本格的な交渉を間近に控えながら、英政局の不安定な状況が続くことは、ポンドにとってネガティブな材料となるだろう。4月18日にメイ首相が総選挙実施を表明した時の水準より、ポンドは対ドルや対円にまだ高い位置にいるため、少なくとも短期的にはその水準まで下落余地があると考えられる。対ユーロでは0.8800が一つの節目になっており、その水準を超えることがあれば、もう一段のポンド安を想定する必要があるかもしれない。今週は13日(火)に英5月消費者物価指数(CPI)と英5月CPIコア、14日(水)に英5月失業率、15日(木)に英5月小売売上高と、重要な指標が多数あることに加え、15日(木)にはBOEの金融政策委員会が開かれるが、今週のポンドは、経済指標や政策会合よりも、政治の動きに注目が集まることになりそうだ。特に今回の英総選挙の結果がBrexitに与える影響は、長期的な英国の成長を予想するうえで重要であるため、市場の関心は高い。今回の英総選挙によって、市場が期待していたスムーズなBrexitは困難になることが予想され、これは長期的に英国経済においてネガティブな材料となり、ポンドの下落要因にも繋がると考えられる。今後も不確定要素が多い中、市場が不安定な動きを見せる可能性があることを想定する必要があるだろう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(6/5~6/9)の値動き:

(対ドル) 安値 1.2636 高値 1.2978 終値 1.2744

(対円) 安値 139.54 高値 143.10 終値 140.62



4. 豪ドル

(1) 今週の予想レンジ: 0.7450 ~ 0.7700 82.00 ~ 84.50 円

(2) ポイント[先週の回顧と今週の見通し]

先週の豪ドル相場は上昇する展開となった。週初5日に対ドル0.74台前半レベル、対円82.00円レベルでオープン。サウジアラビアなどの中東4か国が突如カタールとの国交断絶を発表したことを受けて、原油供給不安の高まりから原油価格が一時上昇。こうした動きを背景に豪ドルは対ドル0.7450近辺まで上昇した。また、発表された豪1～3月期企業在庫統計が市場予想を上回ったことなども追い風となり、その後も豪ドルは対ドル0.74台後半まで続伸した。6日は豪州準備銀行(RBA)が政策金利を1.50%に据え置くことを決定。同時に発表された声明文では豪州の経済成長率は今後数年間で緩やかに上昇するとの見通しを示した。但し、前回内容を踏襲するものであったため、市場への影響は限定的。その後、海外時間に入り、全般的なドル売り地合に豪ドルは対ドル0.75台前半まで値を上げた。7日は豪1～3月期GDPが発表され、前年比ベースで市場予想を若干上回る結果に、豪ドルは対ドル0.75台半ばまで力強く上昇。その後も豪ドル高の流れは継続し、一時週高値となる0.7568まで続伸した。8日は豪4月貿易収支が発表され、市場予想を大幅に下回る結果に豪ドルは対ドル0.75台前半まで下落。しかし、その後発表された中国5月貿易収支が良好な結果となったことを好感し、豪ドルは対ドル0.75台半ばまで反発した。海外時間に入り、ECB政策理事会の結果やコミー前FBI長官の公聴会の内容が報じられるも、豪ドル相場への影響は限定的で0.75台半ばで揉み合う展開が続いた。9日は英総選挙の出口調査で与党・保守党が過半数を下回る可能性について伝わると、豪ドルは対ドル0.7525近辺まで下落。その後は落ち着いた値動きに終始し、0.75台前半でレンジ推移となると対ドル0.7530レベル、対円83.00円レベルで越過した。

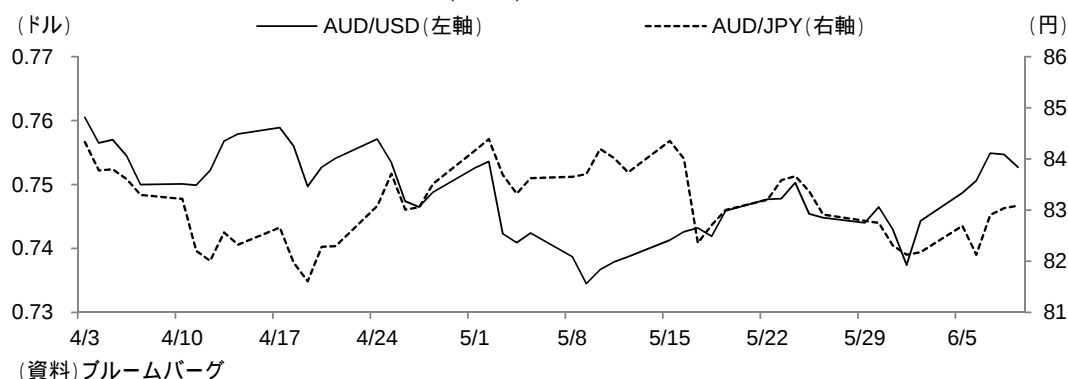
今週の豪ドル相場は堅調な値動きを予想する。今週最大の注目イベントは米FOMCであるが、すでに25bpの利上げはマーケットに織り込まれており、利上げがドル買いを誘発するとは考えにくい。同時に発表されるドット・チャート(メンバーの政策金利見通し)次第ではドルが買い込まれる可能性はあるものの、直近FRB高官よりインフレ率の下振れに警戒する発言が相次いだことを踏まえると、今後の利上げ見通しを加速させる可能性は低いように思われる。むしろ材料の出尽くし感からドル売りの流れが強まるリスクを警戒したいところ。一方、豪州サイドからは15日(木)に豪5月雇用統計などが発表される。先週発表された豪1～3月期GDPは堅調な豪経済の状況を示しており、今週発表される豪経済指標が良好な結果となれば、豪ドルが一段高となる可能性は高い。豪ドルの水準的にも約1か月ぶりの高値圏まで回復しており、また200日移動平均線などの重要なテクニカルポイントも上抜けている状況。今週の値動き次第では0.76台乗せを試す展開も十分に想定され得る。豪州最大の輸出品目である鉄鉱石価格が昨年10月以来の低水準まで落ち込んでいることがやや気がかりではあるものの、今週の豪ドル相場は総じて底堅い展開を予想する。また、今週の豪州の主な経済指標は13日(火)に5月NAB企業景況感指数/企業信頼感指数の発表が予定されている。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(6/5～6/9)の値動き:

(対ドル) 安値 0.7416 高値 0.7568 終値 0.7530

(対円) 安値 81.78 高値 83.40 終値 83.09



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。